



5. 中央北整備部の現状		
<p>(1)重要成功要因</p> <p>「進化する組織」を目指して、献身的人間関係の構築が実現する組織風土の醸成。</p> <p>事業展開への理解を深めるための外部への情報発信（権利者説明会、広報誌及びホームページ等）。</p> <p>OJTやOFFJT（内部会議及び研修など）による職員各人の能力及び部全体の組織力の向上。</p>	<p>(2)経営上の強み</p> <p>能動的に取り組む姿勢による課題の早期発見。</p> <p>きめ細かな対応による権利者との信頼関係の構築。</p> <p>PFI事業の導入や低炭素まちづくり計画の策定など先導的、かつ、多角的な視点・連携による取り組みを通じた強力なメッセージ性。</p> <p>タイムリーな情報発信による事業への関心の高揚。</p>	<p>(3)経営上の課題</p> <p>市民の満足に向けて</p> <p>仮換地指定に対する審査請求への対応。</p> <p>将来の土地利用に関する具体性の欠如。</p> <p>事業の専門性かつ煩雑性による市民理解度の非向上性。</p> <p>組織体質の改善に向けて</p> <p>組織の新体制移行（異動）に伴う、より一層の情報や意識の共有化。</p> <p>公共団体施行（土地区画整理事業）の未経験を補うための普段の自己研鑽。</p> <p>工事、移転補償交渉及び予算執行、これら相互の連携による機動的な事業実施。</p>

6. 中央北整備部の重点目標	
<p>(1)市民満足の向上に向けて</p>	<p>権利者への適切な対応の実施。</p> <p>PFI事業及び低炭素まちづくり計画の連携による市民主体のまちづくりの推進。</p> <p>事業に関する情報発信（権利者説明会、広報誌及びホームページ等）の実践。</p>
<p>(2)組織体質の改善に向けて</p>	<p>部会議、課会議を通じた情報共有の実施。</p> <p>経験不足を補うためのOJTやOFFJTの実施。</p> <p>及び を通して、職員相互の思いやりによる献身的人間関係の構築。</p>

7. 中央北整備部の目標							
指 標		H24実績	H25実績	H26目標	H27目標	H28目標	H29目標
施策評価指標	道路整備等の進捗率（延長ベース）	-	0%	40%			100%
	移転補償の進捗率（件数ベース）	-	32%	60%			100%
	低炭素手続き条例に基づく協議件数	-	-	10件			
市民満足向上に向けた指標	計画検討委員会の参加率	50%	50.0%	50.0%			80%
	まちづくりへの参加延人数（中央公園など）	-	95人	100人			200人
組織体質改善に向けた指標	部会議の開催回数	47回	51回	52回			50回
	課会議の開催回数	94回	90回	100回			100回
	OJTの受講延べ人数	100人	100人	100人			100人
	OFFJTの受講延べ人数	20人	43人	50人			20人